

伝わる伝えかた

会長 清水 剛志

2020年も終盤にさしかかろうとしています。今年がこのような状況になることは想像していませんでした。考えてみれば、日々未知との遭遇なのですが、ここまで「新たな生活」をするとは驚きです。

研修会や講義などで講師を務める機会があります。聴講者とは距離を取りながらフェイスガードやマスク着用は必要です。聴講者のみなさんも当然マスク着用です。お互いにマスクを着用しながらの状況なのでお互いに顔の半分くらいしか見えていません。

改めて自分が焦っていることに気づきました。思いを伝えたいのですが、伝わっているかどうか分からないからです。これまでの送受信の方法ではうまくいかないのだと感じました。しかし、以前よりも聴講者を感じようとする姿勢が自分の中で強くなり、どのように伝えようか工夫をしています。

web会議やオンライン授業も頻繁となりました。実際に行う場所が、自宅か会議室や講義室なので移動することがなくなり時間も余裕ができ非常に便利です。ただ、マスク着用によるときと同様に不慣れな状況が続いています。

これからはオンライン、あるいはマスク着用授業が常識になるのかもしれませんが、このような急激な状況の変化のなかでいかに「伝えて伝わるか」ということを考えなくてはいけないと思います。和歌や俳句のように短文にたくさんの思いを込めて伝える術を備えるとよいのかもと思います。

がんばる社会福祉士

このコーナーではそれぞれの職場で頑張る社会福祉士会員を紹介しています。

富山市桜谷福祉会 百塚地域包括支援センター 会員 伊井 隆

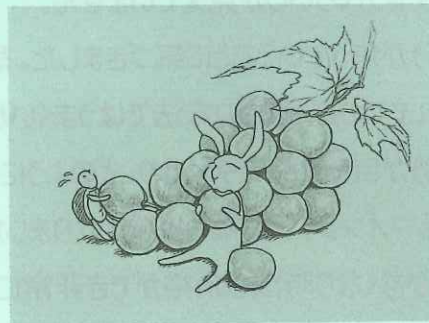
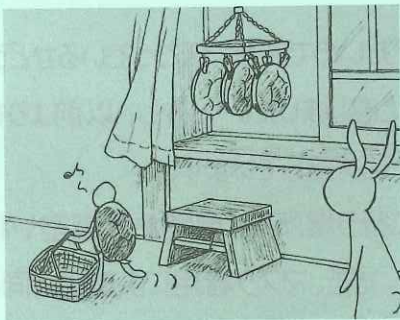
実践・活動の記述・社会福祉士になったきっかけと抱負と、趣味や最近のマイブームを教えてくださいました。

小学校から高校まで楽しく有意義な学生生活を送りました。その中で、先生の姿を見て「あんな先生になりたい」と、教師になることを夢見て大学に入学し、恥ずかしながら初めて知った社会福祉士という資格。今まで自分に関係ないと思っていましたが、福祉の授業や施設でのボランティア活動を通して福祉の魅力を知りました。

そこで進路を変更し、先生に無理を言って、社会福祉士の受験資格を得て挑んだ国家試験。友人と一緒に勉強したこともあり、結果はなんとか合格。卒業後、「まずは現場を学びたい」という思いから、ご縁のあった認知症デイサービスに相談員として3年勤め、介護について1から学ばせていただきました。現場での学びや研修などを通し、「資格を活かして働きたい」と感じ、現在の勤務先である地域包括支援センターに飛び込みました。

センターでは様々な業務がありますが、相談業務（総合相談・成年後見・権利擁護や虐待に関すること等）やケアマネジメント業務、認知症家族介護教室の開催、地域に配布する情報誌の作成、他包括と合同での研修会の開催などを担当し、先輩職員からの学びもたくさんあり、やりがいを感じています。また、業務に取り組む上で分からないことや悩みがあれば、その都度ミーティングが行われ、日頃から相談し合える体制があるため、安心して働くことができます。

コロナウィルスによって、多方面に変化が生じており、私たちは新しい生活スタイルに順応していく必要があります。まだまだ経験・知識共に至らない点は多くありますが、福祉の仕事は人と関わる仕事。相手がいって初めて成り立つ仕事です。銀行員のドラマでは「感謝と恩返し」というフレーズが話題となりました。いつまでも謙虚な姿勢を忘れず、誠実でありたいと思っています。



① (趣味・マイブーム) ピアノと出会って20年。新型コロナウイルス流行によって自粛ムードとなり、父の希望でピアノのレッスンを開始しました。初めてピアノにチャレンジする父と向き合いながら二人三脚。焦ってはいけないと思いつつも、相手に分かりやすく伝えることの難しさを痛感しています。

フレッシュ 社会福祉士 紹介コーナー

このコーナーでは社会福祉士に合格された 1.2 年目の新会員を紹介しています。

社会福祉法人たかおか万葉福祉会かたかご苑

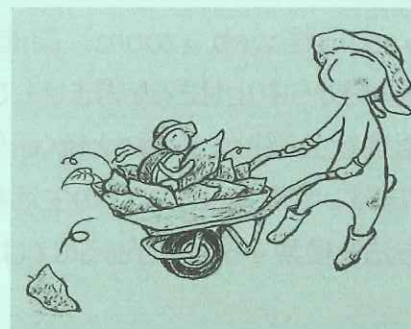
会員 牛島 史央里

私は現在、障害者支援施設で働いています。ここでは、18 歳以上の知的障がい者の方々がおられ、その方々の日常生活上の支援をしています。利用者さんのほとんどが私よりも何倍も年上です。入所棟 が造られた当時から入られている方や、法人の歴史や職員一人一人の様子、曜日ごとの日課の流れ等を詳しく知っておられる方々。私は利用者さんから日々たくさんのことを教えていただいています。この法人で働いて 1 年半経ちましたが、毎日いろいろなことが起こり、悪戦苦闘しながらも、多くの経験をしています。しかし、私自身まだまだ未熟な部分も多く、利用者一人一人との関わり中で問題解決がうまくいか無い場面が多くあります。障害やその支援に関する知識不足、アセスメント力不足を痛感しています。

私は現在障害福祉に携わっていますが、社会福祉士を目指したきっかけは、社会福祉協議会の災害支援を近くで見たことです。数年前、災害ボランティアに参加した際、その地域の社会福祉協議会が主となって多くのボランティア達をまとめ、被災地の支援ニーズの把握・整理とともに、支援活動を希望する個人、団体の受け入れ調整等を行い、周辺地域の社会福祉協議会も一丸となって復興を目指す姿を見て、人と人の関わりがとても深く、誰かのために何かをできる社会福祉士にとっても魅力を感じました。そこから社会福祉士を目指しはじめ、実習やボランティアを重ねて、現在の職種に就いています。

今後は、障害への勉強はもちろんのこと、この基礎研修や社会福祉士会によるセミナー等を通し、成年後見制度や就労支援の多種多様な知識の修得を目指しながら、一つ一つの仕事に誠実に向き合っていきたいと思います。社会福祉士会会員の皆様、今後とも、よろしくお願い致します。

最近のマイブームはジグソーパズルです。108ピース、300ピースをクリアしたので、次はより大きなパズルに挑戦しようと思います。



委員会・研修報告

権利擁護センターぱあとなあ富山

「市民後見人養成講座」に講師を派遣しました。

担当理事 副会長 酒井 誠

呉西地区成年後見センター主催の「市民後見人講座」に講師を派遣しました。講義や演習など計6日間にわたり取り組まれ、8名の方が無事に修了されました。

主催：呉西地区成年後見センター

日時：令和2年8月 計6日間

会場：高岡市社会福祉協議会



2020 年度基礎研修 I

生涯研修委員 担当理事 北滝めぐみ

7月20日。ゆい社会福祉士共同事務所にて、第1回生涯研修委員会が行われました。議題は、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中で、基礎研修Iを開催するかどうか。近県の状況も、石川は中止、福井は実施予定だが方法未定、新潟は日程を3日間に変更し、全日程web(zoom)開催とまちまちです。基礎II、基礎IIIは科目の多さや日程調整の困難さから中止せざるを得ませんでした。基礎Iは基礎II→基礎III→成年後見人材育成、認定社会福祉士取得へと続く研修課程の入り口であり、門戸を開けておく意義は大きいと思われます。今後Withコロナの生活様式が必要なように、基礎研修もこの状況の中で開催できる方法を模索する必要があるのではないかと。さまざまな意見がある中で導かれた結論は、最大限に

感染防止対策をして、eラーニングも取り入れて基礎研修を集合研修で実施するというものでした。

10月10日に県民会館に集まったのは14名の皆さん。この状況下でも自らの時間を割いて学び成長しようとする社会福祉士の仲間です。今年はグループワークは避け、個人ワークと全体での確認・共有を積み重ねていく形で演習を行いました。皆さんのご協力により良い雰囲気の中で進められたのではないかと考えています。

次回は例年2月ですが、今年はインフルエンザの流行時期を避けて12月に開催します。私達社会福祉士の基盤である倫理綱領を自分の中に取り込む演習などが待っています。受講者の皆さんはレポートを、研修委員は感染リスクを避けながらのグループワークの方法の検討を、と互いに課題に取り組み、元気に再会できることを楽しみにしています。

受講者感想

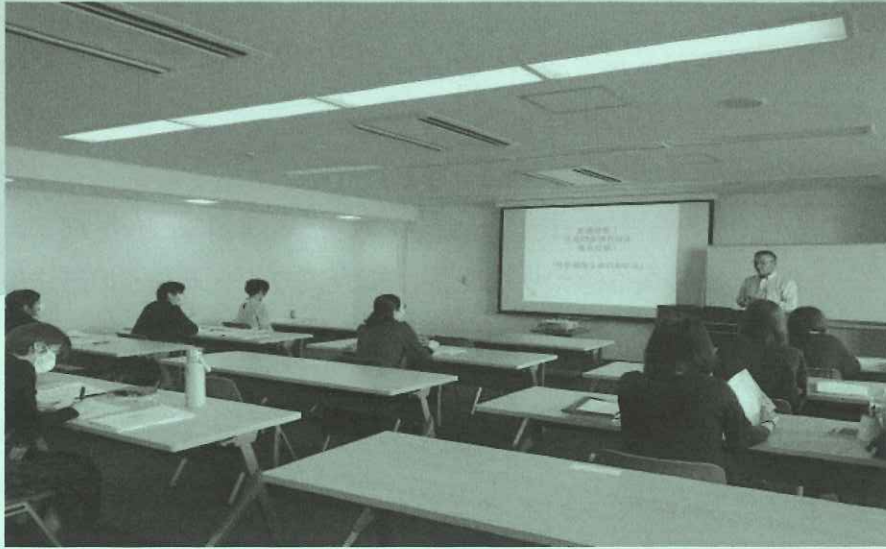
株式会社アポケアとやま 新庄地域包括支援センター 藤井大輔

私は、社会福祉士の国家資格を取得して本年で3年目となる。現在は、地域包括支援センターの相談員として高齢者支援を行いながら、地域の自主的な助け合い活動の立ち上げに関わっている。また、昨年からは縁あって富山県議会議員としても活動を行っている。これらの活動において、ソーシャルワークの専門性が非常に役立っていると感じている。

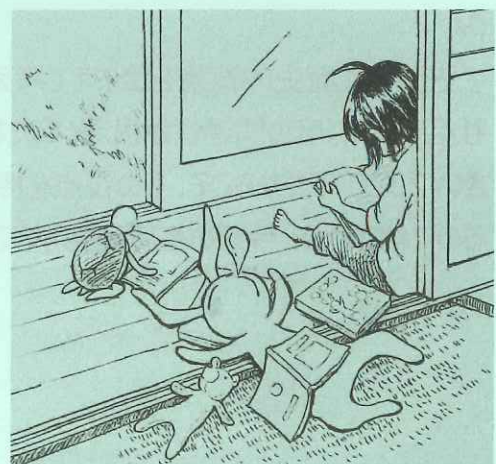
そもそも、ソーシャルワークの源流となるのは、宗教的価値観からの救済活動とされている。その後資本主義経済の成立や産業革命、植民地政策などを経て、社会的な環境は大きく変化する。19世紀後半のイギリスでは都市化に伴う生活困窮者の問題がクローズアップされ、これまで感覚的に捉えていた社会の問題を科学的な方法に基づいて社会調査を行い、社会保障制度の整備へとつなげていく活動が行われた。この社会調査では貧困が個人の怠惰によるものではなく社会構造によって生み出されることを明らかにした点で、ソーシャルワークの原点となったといえよう。

そういった歴史的背景を踏まえて考えると、現代日本における社会課題にも、資本主義経済と社会保障制度の関連性が根深く横たわっているのである。コロナ禍による経済的なダメージが大きい2020年だからこそ、その視点を持ちながらソーシャルワークの実践を行うことが求められているのではないか。今回の基礎研修が、そのきっかけとなるようしっかり学びを深めていきたい。

講義：「社会福祉士会の歩み」

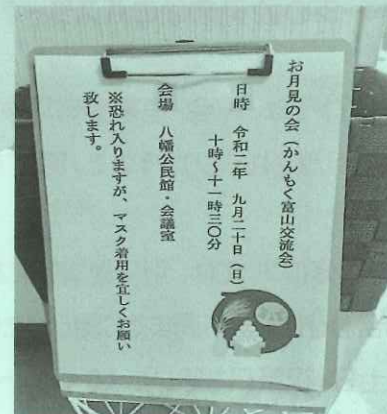


演習：全体での確認 共有



活動紹介

【場面緘黙を考える会 富山】



101号のほっこりイラストは当事者のchi.さんにご協力をいただきました。

【場面緘黙とは】

家庭ではごく普通に話すのに、幼稚園・保育園や学校、特定の職場などの対人場面で不安や恐怖が強く、話すことや声を出すことが難しくなり、日常生活において本来の能力を発揮できなくなってしまう症状です。体が思うように動かせない緘動（かんどう）という状態になることもあります。（場面緘黙を考える会富山HPより @kanmokutoyama で検索してください）

場面緘黙を考える会富山の定例会に参加しました。この会は、場面緘黙の症状がある子どもや大人、経験者、家族、教師、専門家が協力し合い、活発な情報交換と正しい理解の促進を目的としています。

私にとって二回目の緘黙富山の交流会への参加です。今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、7か月ぶりの対面の緘黙交流会でした。参加者14名で初参加された方もおられ、皆さんから近況報告や趣味発表が行われました。発表の仕方は当事者からは言語アプリを使用したり、携帯電話で外から報告したりする他に自分の声で発表する方、ご家族が参加者の報告をする等がありました。

私の初回の参加は4年ほど前でした。自分は、幼稚園時代から高校生くらいまで場面緘黙症でした。場面緘黙症は1,000人に2人くらいの割合で存在するとの事ですが、同じ症状の方に出会ったことがありませんでした。社会福祉士会の酒井誠氏がこの会と関わっていることを知り、定例会の開催を紹介していただいたわけです。初回は仲間？に会えて自己紹介で話が止まらず、ストップが入ったほどです。

それほど同じ症状を持っている方々に会えて嬉しかったことを覚えています。その定例会で、今回オンラインで開催される第5回かんもくフォーラムのチラシをいただきました。

緘黙症の原因は、本人の持っている要素や本人の外側にある問題がありますが、強い不安や緊張などにより、話すことだけでなく、その他の動作も抑制されてしまい「その人らしさ」が発揮できない状態であるということです。安心できる環境を整え、持っている力や、「その人らしさ」を発揮できるようにすることが大切だとフォーラムから学びました。

私は、おとなしい子でずっと幼少時代から過ごしてきました。学校も親も「人見知りのおとなしい子」で何の支援も受けていません。自分も辛いとか生きにくいとか、話せないから助けてとは言えませんでした。

フォーラムの中で講師の長野大学 高木潤野先生が、場面緘黙をもっと皆に知ってもらおうこと、支援者を増やしていきたい事を話されていました。私も支援者としてお手伝いさせていただきたいと思いました。

(永野 美江)

**** ** 事務局からのお知らせ ** ** ***

【ホームページの会員向けのパスワードについて】

会員向けサイトでは、総会・理事会等議事録、などを閲覧いただけます。
パスワードで保護されておりますので、閲覧するには次のパスワードを入力してください。

また、基礎研修については、別に受講者にお知らせしております受講者用パスワードを入力してください。

※お問い合わせは、事務局までお願いいたします。

(水・土日・祝祭日を除いた 10 : 00～15 : 00 0766-55-5572)

【倫理綱領が新しくなりました】

新倫理綱領が 6 月 30 日に採択されました。下記よりダウンロードできます。

https://www.jacsw.or.jp/01_csw/05_rinrikoryo/files/rinri_koryo.pdf

【会員情報変更届をご提出ください】

ご住所、氏名、勤務先に変更があった場合は、別紙様式にて速やかに変更届のご提出をお願いします。

また、下記のホームページからダウンロードしていただくことも可能です。

富山県社会福祉士会 HP (<https://www.toyama-csw.org/>)本会について⇒入会案内下段

日本社会福祉士会 HP (<https://www.jacsw.or.jp/>) よくある質問

【編集後記】

鯽おこし 101 号を発行できました。がんばる社会福祉士として、今回もお二人に原稿をお願いしました。

原稿は随時募集しております。印刷発送は、ワークハウス連帯さんです。

ほっこりイラストは chi.さんからいただきました。ありがとうございます。

